



## 2023年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月14日

上場会社名 株式会社マーケットエンタープライズ 上場取引所 東  
 コード番号 3135 URL <http://www.marketenterprise.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小林 泰士  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 今村 健一 (TEL) 03-5159-4060  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年6月期第2四半期の連結業績(2022年7月1日~2022年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第2四半期	7,386	34.5	△43	—	△73	—	△134	—
2022年6月期第2四半期	5,492	△2.4	△204	—	△221	—	△177	—

(注) 包括利益 2023年6月期第2四半期 △119百万円(—%) 2022年6月期第2四半期 △162百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第2四半期	△25.20	—
2022年6月期第2四半期	△33.51	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第2四半期	4,167	1,187	22.1
2022年6月期	3,531	1,296	29.7

(参考) 自己資本 2023年6月期第2四半期 920百万円 2022年6月期 1,050百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年6月期	—	0.00			
2023年6月期(予想)			—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年6月期の連結業績予想(2022年7月1日~2023年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,000	25.1	300	—	275	—	167	—	31.39

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2023年6月期2Q	5,322,800株	2022年6月期	5,304,800株
2023年6月期2Q	395株	2022年6月期	349株
2023年6月期2Q	5,321,800株	2022年6月期2Q	5,295,513株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10
(収益認識関係)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

## ① 当四半期連結累計期間における経済情勢と当社グループの事業概要

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症拡大による行動制限が徐々に緩和され、経済活動の持ち直しが期待される一方で、エネルギーや原材料価格の高騰に伴う各種商品の値上げ、世界的な金融引き締めに伴う景況感の悪化等により消費マインドは停滞し、依然として景気の先行きは不透明な状況にあります。

個人消費につきましては、従前にも増して節約や低価格志向が根強くなりながらもその動向は必ずしも節約・低価格の一辺倒なものではなく、個人の価値観や嗜好性に応じたメリハリのある消費スタイルが浸透し、特にインターネットを介した消費行動においてその傾向は顕著であります。そのような社会環境下、当社グループは多様化する消費行動や賢い消費を求める消費者に対し、その人にとって最適な消費の選択肢を提供する「最適化商社」を目指し、昨今の世界的な潮流であるSDGsの実現に向けた経済活動であるサーキュラーエコノミー（循環型経済）の発展の一翼を担うべくその実現に向けた事業を展開しております。

## ② 当四半期連結累計期間における業績の状況

当社グループは「持続可能な社会を実現する最適化商社」をビジョンに掲げ、多様化する消費行動や様々な消費スタイルに対し、個々人そして一部の商品・サービスにおいては事業者や法人にまでその枠を広げ、インターネットを通じて最適な消費の選択肢を提供するべく事業を推進しております。

当社グループは2024年6月期を最終年度として売上高200億円、営業利益12億円を目標とする3カ年の中期経営計画を公表しており、その中間年度となる当期（2023年6月期）は、前期に引き続き中期的な収益基盤の構築に向けた投資を継続することに加え、売上規模の拡大及び収益性の改善を計画しております。その実現に向け、当第2四半期連結累計期間に行った取組の内容は以下のとおりであります。

報告セグメント	取組の内容
ネット型リユース事業	(個人向けリユース分野) ・ 商圏拡大に向けた千葉リユースセンターの新規開設（10月） ・ 出張買取数の増加に向けた出張買取人員、車両の増強 ・ 買取依頼数増加に向けたマーケティング投資 (農機具分野) ・ 輸出量の増加に向けた更なる海外販路の拡充 ・ 前期第4四半期に株式会社ファーマリーから譲り受けた中古農機具・販売事業における国内法人との取引規模の拡大 (おいくら分野) ・ リユースプラットフォームとしての収益基盤の拡充に向けたシステム投資 ・ 官民一体でのSDGsの実現（不要品の二次流通促進による廃棄物の削減及び環境負荷軽減）に向けた地方自治体との連携
メディア事業	・ 検索エンジンアルゴリズムのアップデートに対応した掲載記事のメンテナンス ・ 送客対象となる商品・サービスの領域拡大
モバイル通信事業	・ ニーズにマッチした新プランの拡充による新規回線契約獲得 ・ 4G→5Gへの契約変更訴求によるユーザーの回線契約期間の長期化

これらの取組の結果、売上高は7,386,286千円（前年同期比34.5%増）、営業損失は43,427千円（前年同期は204,712千円の損失）、経常損失は73,431千円（前年同期は221,484千円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は134,096千円（前年同期は177,464千円の損失）となり、概ね想定どおりの推移となりました。

## ③ 報告セグメントの状況

## ・ ネット型リユース事業

当セグメントでは、販売店舗を有せずインターネットに特化したリユース品の買取及び販売に関するサービスを展開しており、当社グループの基幹事業であります。

買取においては「高く売れるドットコム」を総合買取サイトの基軸とし、商品カテゴリー別に分類された複数の買取サイトを自社で運営しております。販売において「ヤフオク!」はじめ、「楽天市場」、「Amazon」、自社ECサイト「ReRe（リリ）」など複数サイトへ同時出品し、インターネットを通じて商品を販売しております。主に「大型」「高額」「大量」といった、CtoC（個人間取引）では梱包や発送が難しい商品を取扱い、CtoBtoCというプロセスで当社が取引に介入することで、品質担保をはじめ、リユース品の売買に対して顧客に安心感を提供しております。近年ではこれらで培ったナレッジ・ノウハウを元に農機具分野へ参入し、国内のみならず農機具輸出事業を展開するなど、既存事業とのシナジーを活かして事業の多角化に努めております。また、リユースプラットフォーム「おいくら」（全国のリサイクルショップが加盟し、売り手である一般消費者と買い手であるリサイクルショップをマッチングするインターネットプラットフォーム）の基盤拡充に向けた施策を行っております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、旺盛な買取ニーズに対応し更なる商圏拡大を行うべく、2022年10月に新規拠点（千葉リユースセンター）を開設いたしました。また、個人向けリユース分野において、前期より引き続き買取依頼数増加のための積極的なマーケティング投資、商品買取に関する出張買取バイヤーの採用及び教育研修、車両等の増強を行いました。また、それらの投資を実施しながらも商品買取に関して潜在ニーズへのアプローチを本格化させたことにより、取扱量が増加いたしました。農機具分野につきましては、2022年4月に譲り受けた株式会社ファーマリーの中古農機具買取・販売事業とのシナジーにより国内法人との取引量が増加いたしました。

「おいくら」については、リユースプラットフォームとしての中長期的な収益基盤拡充に向けたシステム投資や官民協働でのSDGsの実現（不要品の二次流通促進による廃棄物の削減及び環境負荷軽減）に向けた地方自治体との連携を推進し、その連携数は2022年12月末日現在で、16自治体（前四半期比10自治体の増加）に至りました。

これらの結果、売上高は4,071,851千円（前年同期比31.0%増）、セグメント利益は121,795千円（前年同期比462.0%増）となりました。

## ・ メディア事業

当セグメントでは、賢い消費を求める消費者に対し、その消費行動に資する有益な情報をインターネットメディアで提供するサービスを展開しており、以下の8つのメディアを運営しております。

- ・ モバイル通信に関するメディア : 「iPhone格安SIM通信」「SIMCHANGE」
- ・ モノの売却や処分に関するメディア : 「高く売れるドットコムMAGAZINE」「おいくらMAGAZINE」
- ・ モノの購入に関するメディア : 「ビギナーズ」「OUTLET JAPAN」
- ・ モノの修理に関するメディア : 「最安修理ドットコム」
- ・ 中古農機具の買取・販売プラットフォーム : 「中古農機市場UMM」

当第2四半期連結累計期間におきましては、検索エンジンアルゴリズムのアップデートに対応した既存掲載記事のメンテナンスや送客対象となる商品・サービスの領域拡大を行ったこと等により、前四半期に引き続き収益性の高いキーワードにおける検索ランキングがほぼ想定どおりに推移いたしました。結果として主力分野であるモバイル通信に関するメディアは概ね堅調に推移し、その他分野（趣味、インターネットサービス等）に関するメディアのページビュー数、送客収入は大きく成長いたしました。

これらの事業展開が奏功し、収益基盤の多様化が図られたことで売上高は393,838千円（前年同期比50.7%増）、セグメント利益は230,834千円（前年同期比60.6%増）となりました。

## ・ モバイル通信事業

当セグメントでは、連結子会社の株式会社MEモバイルが、通信費の削減に資する低価格かつシンプルで分かりやすい通信サービスを展開しており、主力サービスとして、「カシモ（＝”賢いモバイル”の略称）」というブランド名のもと、主にモバイルデータ通信のサービスを提供しております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、メディア事業との連携強化により自社通信メディアからの送客が堅

調に推移したことに加え、他社が運営するメディアへの積極露出を行ったことから新規回線獲得数が増加いたしました。また、既存契約回線(4G)の契約期間が満了するユーザーに対し、後続となる5G回線への変更を訴求することで、1ユーザ当たりの契約期間延長を図りました。一方で、中期的に安定した収益基盤を構築すべくストック収入の比率が高い料金プラン(新規契約回線獲得時に計上される一時的な収益が低下し、将来の収益が増加)拡販のために、新規回線獲得に向けた積極的な広告宣伝活動を行ったことにより、一時的にコストが増加いたしました。

これらの結果、売上高は2,995,014千円(前年同期比38.6%増)、セグメント利益87,028千円(前年同期比71.6%増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産

当第2四半期連結会計期間末の総資産については、前連結会計年度末に比べて636,610千円増加し、4,167,992千円となりました。これは主に、現金及び預金の増加355,003千円、商品の増加218,937千円、投資その他の資産の増加169,949千円があったことによるものであります。なお、投資その他の資産の増加は主として株式会社SBI証券と差分決済型自社株価先渡取引を実行したことに伴う、保証金の差し入れによるものであります。

### ② 負債

当第2四半期連結会計期間末の負債については、前連結会計年度末に比べて745,607千円増加し、2,980,898千円となりました。これは主に、短期借入金の調達による増加801,000千円があった一方で、長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)の減少118,818千円があったことによるものであります。

### ③ 純資産

当第2四半期連結会計期間末の純資産については、前連結会計年度末に比べて108,997千円減少し、1,187,094千円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失134,096千円の計上によるものであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、96,231千円の資金の減少(前年同四半期は348,258千円の資金の減少)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失72,307千円や棚卸資産の増加220,579千円があった一方で、仕入債務の増加37,502千円や未払金の増加46,550千円、未収消費税等の増加84,646千円があったことによるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、198,197千円の資金の減少(前年同四半期は98,466千円の資金の減少)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出26,658千円や敷金及び保証金の差入による支出158,117千円によるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、654,687千円の資金の増加(前年同四半期は21,906千円の資金の減少)となりました。これは主に短期借入金の返済による支出3,900,000千円や長期借入金の返済による支出118,818千円、コミットメントライン設定に伴うアレンジメントフィー等の支払額27,605千円があった一方で、短期借入れによる収入4,701,000千円があったことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当四半期累計期間の業績は計画通り進捗しており、2023年6月期の通期連結業績予想につきましては、2022年8月12日に公表いたしました業績予想数値から変更はございません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	941,696	1,296,699
売掛金	971,026	937,464
商品	439,020	657,958
貸倒引当金	-	△14,943
その他	189,331	143,262
流動資産合計	2,541,074	3,020,440
固定資産		
有形固定資産	365,858	398,154
無形固定資産		
のれん	171,685	133,997
その他	44,095	36,781
無形固定資産合計	215,781	170,779
投資その他の資産	408,667	578,616
固定資産合計	990,307	1,147,551
資産合計	3,531,382	4,167,992
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	366,179	403,681
短期借入金	800,000	1,601,000
1年内返済予定の長期借入金	247,656	230,491
未払金	282,308	327,138
リース債務	15,462	16,620
未払法人税等	46,044	45,402
その他	300,807	274,557
流動負債合計	2,058,458	2,898,892
固定負債		
長期借入金	147,472	45,819
リース債務	14,288	35,874
その他	15,071	311
固定負債合計	176,832	82,005
負債合計	2,235,290	2,980,898
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	325,937	330,999
資本剰余金	305,577	310,639
利益剰余金	406,710	273,182
自己株式	△530	△582
株主資本合計	1,037,694	914,237
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	12,322	6,732
その他の包括利益累計額合計	12,322	6,732
新株予約権	1,040	936
非支配株主持分	245,033	265,187
純資産合計	1,296,091	1,187,094
負債純資産合計	3,531,382	4,167,992

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年7月1日 至2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年7月1日 至2022年12月31日)
売上高	5,492,960	7,386,286
売上原価	3,578,328	4,703,571
売上総利益	1,914,632	2,682,714
販売費及び一般管理費	2,119,344	2,726,142
営業損失(△)	△204,712	△43,427
営業外収益		
保険配当金	195	260
助成金収入	4,667	1,639
自販機収入	352	242
デリバティブ評価益	-	4,800
スクラップ売却益	2,057	1,072
その他	1,209	1,313
営業外収益合計	8,481	9,327
営業外費用		
支払利息	2,542	6,563
為替差損	2,125	5,598
支払手数料	20,421	26,590
その他	164	580
営業外費用合計	25,253	39,331
経常損失(△)	△221,484	△73,431
特別利益		
固定資産売却益	-	1,124
特別利益合計	-	1,124
特別損失		
固定資産除却損	7,798	0
特別損失合計	7,798	0
税金等調整前四半期純損失(△)	△229,283	△72,307
法人税、住民税及び事業税	23,286	36,430
法人税等調整額	△86,814	5,205
法人税等合計	△63,528	41,635
四半期純損失(△)	△165,754	△113,942
非支配株主に帰属する四半期純利益	11,709	20,153
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△177,464	△134,096

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
四半期純損失(△)	△165,754	△113,942
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	3,151	△5,589
その他の包括利益合計	3,151	△5,589
四半期包括利益	△162,602	△119,532
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△174,312	△139,685
非支配株主に係る四半期包括利益	11,709	20,153

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△229,283	△72,307
減価償却費	29,853	32,347
のれん償却額	34,612	37,688
貸倒引当金の増減額(△は減少)	-	14,943
受取利息及び受取配当金	△38	△35
支払利息	2,542	6,563
売上債権の増減額(△は増加)	△157,896	33,562
棚卸資産の増減額(△は増加)	△183,062	△220,579
仕入債務の増減額(△は減少)	36,365	37,502
固定資産売却損益(△は益)	-	△1,124
固定資産除却損	6,641	0
助成金収入	△4,667	△1,639
前払費用の増減額(△は増加)	△13,363	△35,935
未払金の増減額(△は減少)	28,521	46,550
未払費用の増減額(△は減少)	4,008	3,214
未払消費税等の増減額(△は減少)	12,161	△29,226
未収消費税等の増減額(△は増加)	-	84,646
コミットメントライン関連費用	20,421	26,590
その他	△12,641	△14,511
小計	△425,824	△51,750
利息及び配当金の受取額	38	35
利息の支払額	△2,542	△6,563
法人税等の支払額	△3,908	△39,592
法人税等の還付額	79,312	0
助成金の受取額	4,667	1,639
営業活動によるキャッシュ・フロー	△348,258	△96,231
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△41,970	△26,658
有形固定資産の売却による収入	-	1,124
投資有価証券の取得による支出	-	△15,000
無形固定資産の取得による支出	△23,170	-
敷金及び保証金の差入による支出	△34,876	△158,117
その他	1,550	454
投資活動によるキャッシュ・フロー	△98,466	△198,197
財務活動によるキャッシュ・フロー		
新株予約権の行使による株式の発行による収入	505	10,018
短期借入れによる収入	500,000	4,701,000
短期借入金の返済による支出	-	△3,900,000
長期借入金の返済による支出	△491,112	△118,818
リース債務の返済による支出	△9,300	△9,856
アレンジメントフィー等の支払額	△22,000	△27,605
その他	-	△52
財務活動によるキャッシュ・フロー	△21,906	654,687
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,720	△5,255
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△465,910	355,003
現金及び現金同等物の期首残高	1,469,224	941,696
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,003,314	1,296,699

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 2
	ネット型 リユース 事業	メディア 事業	モバイル 通信事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,108,445	223,497	2,161,018	5,492,960	—	5,492,960
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	37,773	—	37,773	△37,773	—
計	3,108,445	261,270	2,161,018	5,530,733	△37,773	5,492,960
セグメント利益 又は損失(△)	21,672	143,717	50,712	216,102	△420,814	△204,712

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△420,814千円には、セグメント間取引消去38,491千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△459,306千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 2
	ネット型 リユース 事業	メディア 事業	モバイル 通信事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,071,851	319,420	2,995,014	7,386,286	—	7,386,286
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	74,418	—	74,418	△74,418	—
計	4,071,851	393,838	2,995,014	7,460,704	△74,418	7,386,286
セグメント利益 又は損失(△)	121,795	230,834	87,028	439,659	△483,086	△43,427

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△483,086千円には、セグメント間取引消去55,976千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△539,062千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## (収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			
	ネット型 リユース 事業	メディア 事業	モバイル 通信事業	計
総合リユース	2,576,918	—	—	2,576,918
マシナリー(農機具・建機)	531,526	—	—	531,526
成果報酬型広告収入	—	223,497	—	223,497
通信サービス手数料収入	—	—	2,161,018	2,161,018
顧客との契約から生じる 収益	3,108,445	223,497	2,161,018	5,492,960
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	3,108,445	223,497	2,161,018	5,492,960

当第2四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			
	ネット型 リユース 事業	メディア 事業	モバイル 通信事業	計
総合リユース	3,048,692	—	—	3,048,692
マシナリー(農機具・建機)	1,023,158	—	—	1,023,158
成果報酬型広告収入	—	319,420	—	319,420
通信サービス手数料収入	—	—	2,995,014	2,995,014
顧客との契約から生じる 収益	4,071,851	319,420	2,995,014	7,386,286
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	4,071,851	319,420	2,995,014	7,386,286